

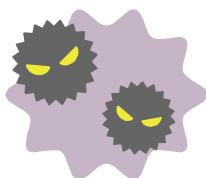


乳幼児や高齢者は要注意! インフルエンザの合併症 「細菌性肺炎」

今年もまた“インフルエンザの流行期”になりましたね。高熱や体のだるさなどを引き起こす「インフルエンザ」ですが、合併症のひとつに『細菌性肺炎』という肺炎があることをご存じでしょうか？ 実はこの肺炎は、インフルエンザ合併症の中でかかる人が最も多く、重症になると命の危険を伴う怖い病気です。特に体力のない乳幼児や、高齢者は重症化するケースが多いため注意が必要です。



「細菌性肺炎」の原因は？



インフルエンザにかかると、喉や気道などの粘膜に炎症が起きてしますが、さらに症状が進むと、体の抵抗力が低下して細菌に感染しやすくなり、結果「細菌性肺炎」を併発してしまいます。このような「細菌性肺炎」の原因となる主な菌には、「肺炎球菌」「インフルエンザ菌」「黄色ブドウ球菌」の3種類があります。以下では、それぞれ“細菌別の肺炎の特徴”をお伝えします。

「肺炎球菌」による肺炎

最も多いタイプの肺炎です。症状は激しい咳と痰で、渴いたような咳が1～2日続いたあと、痰が鉄のような色に変化していきます。インフルエンザの症状と見分けがつきにくいため、肺炎に気づかないことも多いそうです。重症化しやすい高齢者は、肺炎球菌の予防接種を受けるようにしましょう。

「インフルエンザ菌」による肺炎

生後半年から4歳までの乳幼児に最も多いタイプの肺炎です。症状は高熱と激しい咳が出ますが、中には敗血症を併発する場合があります。ちなみに「インフルエンザ菌」は、インフルエンザウイルスとは異なる細菌です。



「黄色ブドウ球菌」による肺炎

主に**乳児にみられるタイプの肺炎**です。近年、症例は少なくなっているそうですが、かかると進行が早く死亡率も高いため油断はできません。また、重い呼吸器系の疾患も併発することがありますので注意しましょう。



特に注意が必要な方は？

次のような方は“細菌性肺炎にかかるリスクが高い”と言われています。早めにインフルエンザの予防接種を受けたり、手洗いやうがいを日々行って予防に努めましょう。

- 60歳以上の高齢者
- 4歳以下の乳幼児
- 老人施設に入居している方



- 心血管、呼吸器、腎臓に持病のある方
- 糖尿病、免疫不全の方

肺炎にならないためには？

合併症による肺炎を予防するためには、インフルエンザに感染したらしっかりと休息を取って早く治すことです。自己判断で薬を止めたり、外出したりするのは絶対にやめましょう。もし、インフルエンザにかかってから5～7日経っても、「熱が下がらない」「咳が悪化している」といった症状がある場合は、一度肺炎を疑ってみましょう。一般的に肺炎は進行が早く、すぐに深刻な状態になってしまう場合もありますので、早めの受診をおすすめします。



インフルエンザに感染した高齢者のうち“4人に1人”が細菌性肺炎にかかると言われています。

少しでも症状が「おかしいな…」を感じたら、すみやかにお医者さんに相談してくださいね。

